

## ハルビン・長春旅行記 (2017年5月3日～6日)

哈爾濱（以下ハルビン）と長春（旧新京）は初めての訪問地である。ここ数年旧友と春に2泊か3泊の海外旅行をしている。2010年以降では上海・杭州、バンコク、西安、上海・南京に行った。今年は旧満州国ゆかりの都市を訪問した。（為替レート元＝約16円）

5月3日（水）

中国のLCC春秋航空で名古屋空港を7:55発に乗ると10:05にハルビン空港に着いた。曇り時々晴れだが砂塵の嵐であった。入国審査に45分超かかり旅行バックを受取る際に出国時の航空チケット半券をチェックされた。またセキュリティチェックは相当レベルが高い。空港を出たのは11時過ぎだった。現在ハルビン市は人口10百万人の大都市であるが、地方空港なので国際線ロビーは狭い。日本からの直行便は名古屋空港のみで一日1便である。今回の旅費は往復4万円弱だった。但し名古屋空港周辺に前泊する必要がある。

空港内に銀行ATMはなかった。手元に通貨を所持していたのが幸いした。ホリデイインホテルにタクシーで向った。タクシーはメーター制で不正は発生しない。しかし大型タクシーは通常の2倍近くかかる。我々は大型だったので300元だった。

ホリデイインはハルビン市街の中心で交通至便である。外国人が散見されたが、非常に少数であった。ロビーに中国銀行のATMがあった。ホテルにはWiFi環境は整備されていたが、グーグルとフェースブックはワークしなかった。さらにホテル従業員は殆ど英語が話せない。これは長春市も同じで、今回旅行ではコミュニケーションで大変苦労した。ただ「筆談」が奏功して概ね楽しい旅となった。（注：ロシア語も多分通じないだろう）

ランチを「中央大路」の「東方餃子王」で食べた。水餃子と肉野菜炒めとビール2本で150元だった。この店は旅行ガイドブックにあったところで評判通りの店だった。

その後「聖ソフィア大聖堂」に向かってブラブラした。大聖堂は現在博物館になっており、館内は昔の写真が展示されていた。ハルビンは100年前ロシア帝国が「東のパリ」として建設した。日清戦争で日本が勝利した後、約30年ロシアが満州の実質的な支配者になった。東清鉄道（後の満州鉄道）敷設権と経営権を清国から取得した。なお当時のハルビン市は人口20万人でその半分がロシア人だったそうだ。

この日は晴天で温かであったが、風が強く砂



塵が酷く空はどんよりとしていた。空港着陸の際、相当揺れたのは強風が影響していたようだ。黄砂蔓延はこの季節日常的だとのことだ。

そこから有名なハルビン駅に向かった。長春行き新幹線予約券をチケットに交換する必要もあった。駅は大改装工事中であった。チケット売り場の駅員で英語の出来る者は皆無だった。日本から持参した予約確認書は日本語である。不安は的中し、とにかくボディランゲージと筆談で、冷や汗かきながら30分でどうにかチケットを入手した。現在中国の高速鉄道の総延長キロ数は2万キロ超で北はハルビン駅から南は広東省広州駅まで繋がる。尤もこれまでいろいろ大事故が多発したことは有名だが、わずか20年足らずで完成させたことは偉業といえるであろう。

それよりここで出会ったハルビンの駅員達は日本から来た「旅人」に大変温かく親切だった。善良な外人から小金を奪り取るような輩では全くなかった。

ハルビン駅は1909年明治の元勲伊藤博文公が安重根に暗殺された場所だ。ガイドブックによれば安重根記念館が在るはずだったが、駅舎工事中で入館不可だった。

次に駅前大通りに面した「旧日本領事館」に向かった。これは80年前建築されたものだが相当巨大だ。日本は1932年から1945年までの13年間、満州国(首都新京)の実質的支配者であった。この建物は当時の地方政府機関であった。その向かい側に「旧ヤマトホテル」があった。中は改装済みであったが、ホテル従業員は英語も日本語も出来なかった。

夕方宿泊ホテルに戻り休息した。夕食は「ロシア大劇院」と決めていた。パリの「リド」を模したもので、歌と踊りを見ながら食事をするレストランである。タクシーに乗ってその地図上の場所に着くと閉鎖となっていた。タクシーの運転手が新しい場所に連れて行ってくれると言うので、そのままタクシーに乗ること30分。しかし到着したのは大劇院ではなく日本料理屋だった。コミュニケーションが完全でないのでタクシー運転手を攻める気にはなれなかった。

次のロシア料理屋はガイドブックにある「カチュウシャ」だ。ホテルから徒歩15分のところなので歩いたが、残念ながらここも閉鎖していた。やはりネット検索が出来ないと不便だ。(注；中国の検索エンジン「百度」なら問題ないかもしれない)

その後大通りで偶然ロシア料理店を見つけた(写真参照)。この店は100年前から続く由緒あるレストランでガイドブックにもあった。ここでロシアビールを2本空けた。



5月4日（木）

朝5時40分に起床しタクシーでハルビン西駅に向かった。西駅は高速鉄道専用駅で最近完成した駅舎であった。我々は一等席であったが、我々以外に客は2人だけだった。2等席もガラガラだった。日本で予約して現地でチケット交換するような手続きは不要だった。高速鉄道網は偉業だが、利用客はまだ少ないようだ。帰りの列車もガラガラだった。

7:56発で9時に長春西駅に到着した。小雨と風で寒かった。長春西駅も新しい駅舎であったが駅舎内も人影は少なかった。観光案内嬢が1人いたので声掛けしたが、英語も日本語も出来ず、長春市内地図だけ頂いた。愛想だけは良かった。

次に鉄道チケット売り場に行き、帰りのチケットを普通鉄道から高速鉄道に変更しようと交渉した。昨日以上にコミュニケーションが絶望的で、結局新しいチケットを買うことにした。なおハルビン～長春間の新幹線代金は片道100元だ。

午前は自動車博物館と自動車公園を目指した。しかしタクシーに連れて行かれた場所は名も無き自動車会社の正門だった。地図とガイドブックを示しても運転手には通じない。運転手が海外旅行客に馴れていないようだ。やむなく次に「国際自動車公園」に行くように指示したが、全く観光客のいない公園だった。長春は中国最大の自動車産業のメッカと思って博物館や公園を期待していたが大きく外れた。

次に「偽満州国皇宮博物院」にむかった。なお旧満州国に関連する建物には現在全て「偽」という冠が付いている。皇宮内は再建され観光名所になっていた。受付嬢も洗練されていた。隣接地には最近完成した戦争歴史博物館があった。昨年南京旅行で見学した「南京大虐殺博物館」では、日本人の悪逆非道を非難するものであったが、ここは日本人と大清帝国の愚かな分子が結託したことを非難する内容であった。

小雨なので移動は全てタクシーだが、市内は恒常的に渋滞なので、周回道路を迂回して目的地に運んでくれたが長春も本当に広いと感心した。

疲れたのでランチを求めて長春マンダリンホテルに行った。ここで初めて英語でコミュニケーションが出来た。中華料理と60分のマッサージを受けた。

午後4時頃から市内中心部を散歩し、北朝鮮レストラン「仁風閣」に向かった。豪華な建物の1階と2階を使用し、座席はざっと150席以上あった。5時過ぎに入ったがほぼ満席であった。店内では音楽演奏や演舞も見せてもらった。リーズナブルな価格で大変美味しか





った。ここで働いている従業員が北朝鮮人なのかどうかはわからないが、日本語も出来てサービス内容はハイレベルだった。

7時半の高速鉄道でハルビン西駅に9時前に到着した。そこからタクシーでホテルに帰った。

5月5日（金）曇りのち晴れ

昨日雨であったので空気がとても綺麗で清々しい気分だった。ホテルのビュッフェで朝食をとったが、大変豪華で素晴らしかった。世界各国の料理が楽しめた。ここで突然日本人夫妻から声を掛けられた。ご主人が元教員で、昨年ハルビンに単身赴任して日本語を教えているとのことだった。今回奥さんが旅行に来たが、いろいろ市内観光情報を交換出来た。

この日午前中の目的地は「731博物館」だった。40年前に「悪魔の飽食」という小説が一世風靡したが、そのゆかりの場所だ。この小説は共産党機関紙「赤旗」に連載されたことから政治色の強いものであったので読んではいない。しかし戦争の悲劇の一つとして見聞したいスポットであった。

タクシーを午前中借り切り、「731博物館」に向かった。道路状況によって1時間以上かかることもあるようだが45分で到着した。まずその博物館の壮大さに驚いた。（写真は博物館常駐の警察官が広角で取ってくれたもの）



敷地10万坪、博物館敷地1万坪である。博物館内部は最新のIT技術で音声ガイドはもちろん完備し、CG映像も最先端で当時の関東軍の所業をリアルに再現していた。日本の歴史博物館に比べ、規模とメッセージ性で圧倒していると感じた。この旅行で眠っていた問題

意識が蘇った。この2月にハワイの真珠湾博物館を訪問したが、同様な感想をもった。近現代史を再び学びたくなった。

この後、一路ハルビンに戻り、孔子を祭ったハルビン市内の「文廟」に行った。ここで黒竜江省の地理的特性と伝統芸術が展示されていた。満州、蒙古、朝鮮などの民族の地理的配分図は興味深かった。旧満州国の「5族協和」は虚構に終わったが、当時の時代状況を想像する契機となった。

ランチは「旧ヤマトホテル」の中華レストランで取った。標準的な中華料理であったが、従業員が全く英語も日本語が話せないのは驚いた。

午後は「太陽島公園」に行った。ここは旧ロシア時代の別荘地であった地区を改造したところで、松花江を巨大ロープウェイで渡って到着した。公園は川の中洲にあり、「虎サファ



リー動物園」と「ロシア村公園」が観光名所であった。ここで1月～2月に「冰雪フェスティバル」が開催される。札幌雪祭りと同じだが規模が相当大きいそうだ。また虎動物園には100頭以上の虎がいた。ロシア村にはロシアの民芸品と絵画などが販売されていた。なかなか面白かったが観客は非常に少なかった。

夜は2日前に行けなかった「ロシア大劇院」に行った。パリの劇場レストランの小型版だが価格比十分楽しめるものだ。

#### <感想>

- 1、 東北3省はかつて「満州帝国」と呼ばれた。現在人口110百万人に成長発展した。人々は明るく、旅行客に優しく親切であった。名古屋空港から3時間余でハルビン空港に着けるとは嬉しい驚きだった。
- 2、 ハルビンの気候は初夏で温かかったが、黄砂と風はきつかった。昔5族(満人、漢人、朝鮮人、蒙古人、日本人)が住んでいたが、今は「中国人」として大衆は平和に暮らしているように思えた。しかし外人観光客への対応で外国語が普及していないことが気になった。上海と北京は国際都市だがハルビンはこれからと思う。また人々はほぼスマホを携帯していたが、殆ど中国語だけのサイトを利用しており、海外事情や情報が少ないように思えた。
- 3、 この旅行を契機に友人から2冊の本を紹介された。吉村昭著「蚤と爆弾」と船戸与一著「満州国演義9巻」である。旅が人との話題を深め、新たな本を招いてくれた。来年はモンゴルか昆明に行こうかと夢想している。

(2017.6.2 記す)